

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	該当する・ しない	自己評価(5段階) 1(低)⇔5(高)	事例記述
学校ユネスコ スクール加盟を 支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の 学校から相談があったときにそれに応じる ことができた。	該当する	5	三重県大台町は、ユネスコエコパークに登録されている地域であり、 現在、2つの小学校がユネスコスクール に登録済み、1つの小学校 が国内審査にパスしている。大台町、第3セクター、地元企業、三重 大学とのパートナーシップによる、持続可能な大台町創生に向けた ESD-SDGs 推進のため、2020 年度に宮川流域圏 SDGs ローカル 指標化の研究を行い、その結果に基づき発展的展開のため、2021 年 度創発的研究支援事業研究提案を行い、大台町ローカル SDGs 指標 の策定と分析、評価を行っている。その中心メンバーは、三重大学ユ ネスコスクール 委員会のメンバーを中心に、全学部・研究科の教員 で構成され、特に、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」にお いて、大台町地域でのユネスコスクール加盟希望校への支援および加 盟校への質的向上を図るために、相談に応じている。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施 校に対する相談に応じることができた。	該当する	4	三重県津市の中学校（チャレンジ期間中）において、森林生態系の CO2 削減の調査に、三重大学のユネスコスクール委員会のメンバー が中心となって指導を行なっている。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向け て ESD/SDGs をリードする学校としての 「質の向上」にかかわる支援を行うことが できた。	該当する	3	三重県大台町の加盟済みの2つの小学校において、ESD-SDGs にお ける、質の高い教育支援のために、大台町、第3セクター、地元企業、 三重大学の教員による、ゆずプロジェクトを立ち上げ、地域の特性を 生かした、第1次産業から第6次産業への取り組みを始めている。
大学の持つ知的 財産をユネスコ スクールの活動 に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコ スクールに向けた支援（資料提供やコーデ ィネート、出前授業やワークショップなど）を 行うことができた。	該当する	5	三重県桑名市の高校（国内審査にパス）は、スーパーサイエンスハイ スクール(SSH)に選ばれていることから、SSH 運営指導委員会の会 長、副会長を三重大学の名誉教授、特命副学長（環境・SDGs 担当） が関わり、出前授業及びワークショップの実施、学生たちの活動への アドバイスを積極的に行なっている。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネス コスクールと協働して開催することができ た。	該当する	3	三重県津市内の中学校（ユネスコスクール）の ESD-SDGs 活動のワ ークショップにおいて、PTA と教員、学生との研修会に三重大学教 員が参加し、アドバイスを行っている。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコ スクールと協働で教材やモデルプロジェク トを開発することができた。	該当しない		

地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	該当する	5	三重県川越町、中部電力（株）、三重大学との連携による「エネルギー環境教育」の研修会および城田川越町長、三重大学の教員、三重大学生との「エネルギー環境教育及び持続可能な三重・川越町創生」をテーマに、ESD-SDGs シンポジウムを開催し、三重県内のユネスコスクールの存在および意義について討論を行った。この研究会およびシンポジウムは、三重テレビ「三重県応援団」を通じて、合計4回放映され、三重県内だけでなく、愛知県、滋賀県、長野県の一部地域にも放映されるなど、大きな影響を及ぼした。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	該当する	5	三重県大台町のユネスコスクール（2校は登録済み、1校は国内審査パス）、三重県津市のユネスコスクール（2校は登録済み）、三重県桑名市のユネスコスクール（1校は国内審査にパス）に対して、三重大学が中心となって、行政、地元企業、第3セクター、PTA等多様なステークホルダーとのパートナーシップを結びつけることができた。
	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	該当する	5	三重県の8つの大学との大学コンソーシアムみえを用いて、三重大学と三重県が中心となって、ESD-SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を基とする男女共同参画のリレー講義を構築し、研修会、シンポジウム、オンライン講義や会議を通じて、大学間連携を強めることができた。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	該当する	5	2019年6月に結成された、日本、韓国、中国、タイの大学間アジアサステイナブルキャンパスネットワーク(ASCN)を用いて、オンラインによる三重県のユネスコスクールの活動内容の紹介などを行なった。特に、三重大学生(93名)と中国の南京審計大学の学生(94名)を対象とする、日中大学生の男女共同参画に関する意識調査をオンラインで行い、両大学の学生の意識の類似性および相違性について調べ、ESD-SDGsの国際的協力の可能性を探り、ユネスコスクールの多様な活動について知らせることができた。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	該当しない		
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。	該当する	4	スーパーサイエンススクール(SSH)に選ばれている三重県桑名市内の高校(国内調査にパス)は、SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」を実施できる三重県内のトップランナーとして、学生たちの科学

	例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など。			的成果を、オンラインを通じて隣国の韓国、中国、台湾や東南アジア諸国へアピールする方法、つまり、レポートのまとめ方、英語などの多言語化、相手高校の選定などについて相談され、特に、タイ、韓国のユネスコスクール について情報提供を行なっている。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	該当する	5	三重大学は、2009年8月にユネスコスクールに登録されたことを契機に、三重大学ユネスコスクール委員会が全学的に組織されていることから、定期的なユネスコスクール委員会の開催および委員会の会議録の三重大学HPへの掲示、三重県内のユネスコスクールの活動報告会開催などを毎年行っている。活動内容は、三重大学のHP、特に、三重大学ユネスコスクール委員会の事務局を担っている、三重大学国際環境教育研究センターのHPに公開していることから、学内外へ広く知らせることができる。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	該当する	5	三重大学の教養教育院の教育カリキュラムに、地理学関係、環境学関係、文理融合の集中講義などを通じて、ユネスコスクールに関わる教育を行なっている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	該当する	5	三重県大台町をフィールドとして、三重大学、行政、第3セクター、地元企業とのパートナーシップによる、持続可能な大台町創生に向けたESD-SDGs推進の一環として、2020年度に宮川流域圏SDGsローカル指標化の研究を行った。また、その結果に基づく発展的展開のため、2021年度創発的研究支援事業研究提案を行い、大台町ローカルSDGs指標の策定と分析、評価を行っている。その中心メンバーは、三重大学ユネスコスクール委員会のメンバーを中心に、全学部・研究科の教員で構成されている。
	4. 自由記述			